

三重ノリ生産・販売体制構築事業 アサクサノリ養殖方法の確立

岩出将英・勝田孝司

目的

三重県の黒ノリ養殖業は、高齢化や生産者価格の低迷、経営コストの高騰などにより生産者数の減少が続いている。そのため、黒ノリ養殖業の再建に向けて生産者の経営基盤の改善や収益性の向上を図り、経営の安定化に資する取組を行う必要がある。その方策のひとつとして他県製品との差別化を図り、競争力のある三重県産ノリ製品を生産できる新しい養殖生産体制の構築が挙げられる。

本事業では、全国でもごく一部の地域でわずかししか養殖されていないアサクサノリ (*Pyropia tenera*) に注目し、伊勢湾産アサクサノリの高品質化および増産化のための養殖方法を確立することを目的とする。

方法

伊曾島漁業協同組合の培養施設において、ホタテ殻 10,000 枚に水産研究所が保有しているアサクサノリ養殖株のフリー糸状体を移植し、ホタテ殻糸状体の培養を行った。伊曾島漁業協同組合の採苗施設で陸上採苗を行った後、全ての養殖網を冷凍保存した。令和元年 11 月 28 日から育苗を開始し、定期的に養殖網のサンプリングを行い、アサクサノリの生育状況について調査した。また、生産された板ノリ中のアサクサノリ含量は、PCR 法 (柿沼ら, 2015) によって民間会社が分析を行った。

結果および考察

養殖は、桑名地区の生産者 14 名 (養殖網数 432 枚) によって実施された。令和元年 11 月 28、29 日に全ての養殖網が張り込まれた。11 月から翌 1 月までの桑名漁場における水温の動向について図 1 に示した。張り込み時 (11 月 28 日) の日平均水温は、18.9°C であった。水温は、12 月 6 日にかけて順調な降下が見られたが、12 月下旬にかけて 2 週間程度、停滞傾向で推移した。12 月 9 日に漁場から任意に収集した養殖網サンプル (以下、サンプル) を検鏡したところ、養殖網上の芽付きは 15 個程度 (片側 100 倍視野) であり、葉長は概ね 100~150 μm で形態異常はほとんど見られなかった。12 月 18、23 日にも同様に漁場から収集されたサンプルを検鏡したところ、全てのサンプルに二次芽の着生が確認された。しかし、令和 2 年 1 月上旬ごろから生産者毎のアサクサノリの生長や健全度に違いが出始めた。一部の生産者では、珪藻汚れおよび緑藻の混生が確認され、著しく生長が鈍化した。

1 月 22 日からアサクサノリの摘採、生産が開始されたが、今漁期にアサクサノリの摘採に至った生産者は、4 名であった。

平成 29 年 8 月下旬から始まった A 型流路を基調とした黒潮大蛇行は、令和元年 1 月下旬においても継続していた。黒潮大蛇行がノリ養殖漁場の環境要因に与える影響のひとつに、異常潮位の発生がある。図 2 に令和元年 10 月から令和 2 年 3 月末までの伊勢湾奥部 (名古屋港) における実測潮位の天文潮位との偏差 (日平均) の推移を示した。桑名地区では、支柱式によるノリ養殖が行われており、今漁期は顕著な異常潮位が継続して発生したため、十分な干出時間を得られなかったことが生長不良につながった要因のひとつだと考えられた。

生産に至った 4 生産者全ての板ノリ製品についてアサクサノリ含有率を調べたところ、最低含有量は 78.2 \pm 2.2%、最高含有率は 90.0 % であった (含有率 \pm 標準偏差)。

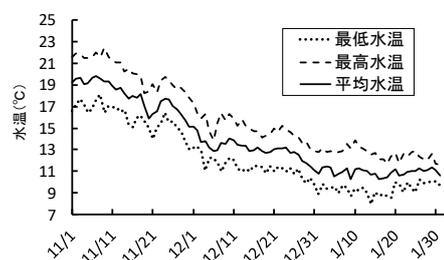


図 1. アサクサノリ漁場の水温
(国交省水文水質データベース)



図 2. 実測潮位の天文潮位との日平均偏差の推移
(名古屋港)

関連報文

柿沼誠・平壮雄・岩出将英. アサクサ板ノリの品質管理・評価技術の開発—PCR による板ノリ中のアサクサノリ含量の簡易定量—. 日本水産学会誌, 2015, 81(5), 817-825.